

# 海軍公報

第四七七九號

昭和十九年八月二十四日(木)  
海軍大臣官房

## ○令 達

内令第九二九號之二

海軍特別根據地隊ノ所管名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和十九年八月五日

海軍

内令提  
要登載

吳鎮守府

第三十二特別根據地隊

ダバオ

吳鎮守府

第三十二特別根據地隊

ダバオ

吳鎮守府

第三十三特別根據地隊

セブ

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ五頁参照)

内令第九八四號

右佐世保鎮守府所管ト定メラル 第三百三十六號特設輸送艦

昭和十九年八月二十日

海軍

内令提  
要登載

内令第九八五號

特設海軍燃料廠令中左ノ通改正セラル

昭和十九年八月二十日

内令提  
要登載

特設海軍燃料廠定員表其ノ三中百一セラム支廠ノ欄及同表備考第三號中「セラム支廠 二〇〇人以上」ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ三〇ノ五頁参照)

海軍大臣

内令第九八六號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十日

海軍大臣

内令提  
要登載

第一百一海軍燃料廠セラム支廠ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ五四頁参照)

内令第九八七號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 第三十一號海防艦

横須賀鎮守府在籍

第三十一號海防艦

内令提  
要登載

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年八月二十一日

海軍大臣

秘海軍公報 第四七七九號 昭和十九年八月二十四日

一一四一

内令第九八八號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

昭和十九年八月二十一日

海軍大臣

第九百九十四號驅潛特務艇

要令 登載

内令第九八九號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十一日

海軍大臣

要令 登載

千島方面根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九百九十三號(横)」ノ次ニ「第九百九十四號(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)

官房軍第一〇二二號

當分ノ間防暑服ハ戰地以外ニ於テハ海軍服裝令施行細則第九條ノ二第三項ノ規定ニ拘ラス第二種軍裝著用期間海軍ノ廳内ニ在ル場合ニ限り之ヲ著用スルコトヲ得但シ離島ニ於テハ廳外ニ於テモ之ヲ著用スルコトヲ得

昭和十九年官房軍第七三九號略裝及防暑服著用ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年八月二十三日

海軍大臣

六月二十八日官房軍第八三一號東京ニ於ケル第二種軍裝(著用期間中廳外ニ於テ略裝著用ニ關スル件自然消滅)

官房需機密第三一〇號

昭和十七年官房機密第一四一八號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十三日

海軍大臣

別表中特種眼鏡ノ部航空防眩眼鏡ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

航空對潛眼鏡	航空隊	航空機搭載隊	第一搭乗配置	五分ノ一
	又ハ艦船	航空機搭載隊	第一搭乗配置	三分ノ一

同表同部備考表中航空防眩眼鏡ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

航空對潛眼鏡	航空隊	航空機搭載隊	第一搭乗配置	五分ノ一
	又ハ艦船	航空機搭載隊	第一搭乗配置	三分ノ一

(参照) 昭和十七年官房機密第一四一八號ハ艦船部隊等ニ勤務スル軍人ニ特種被服物品貸與ノ件(機密會計法規類集三三ノ四三頁)

官房經機密第一三〇八號

昭和二年勅令第六十四號及化學兵器研究從事者保護賜金令ヲ適用スベキ化學兵器研究從事者及化學兵器ノ範圍左ノ通改ム

昭和十九年八月二十三日

海軍大臣

一 化學兵器研究從事者トハ左ノ各應ニ於テ化學兵器ノ試験、製造、檢査及取扱ニ從事スル職又ハ配置ニ在ル者ヲ謂フ  
(イ) 海軍軍需部

<p>(ハ)(ロ) 相模海軍工廠 海軍火藥廠 海軍燃料廠(特設ヲ含ム) 海軍軍醫學校 二 化學兵器トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ (イ) 鹽素系、臭素系、硫黃系、砒素系、青酸系、黃燐系等ノ毒物ヨリ生ズル瓦斯體又ハ蒸氣體ノ軍用毒物 (ハ)(ロ) 生物系軍用毒物 四エチル鉛</p>	<p>附則 化學兵器研究從事者賜金給與細則ハ之ヲ廢止ス 化學兵器手當支給規則第一條中「ニ關スル研究ノ爲其」ヲ削リ同條第四號中「海軍燃料廠」ノ下ニ「特設ヲ含ム」ヲ加フ (參照) 昭和二年勅令第六十四號海軍會計法規類集三卷三七頁 化學兵器研究從事者保護賜金令昭和十八年十一月十七日官報化學兵器研究從事者賜金給與細則及化學兵器手當支給規則機密會計法規類集七七頁</p>	<p>官房艦機密第二五號ノ九九 昭和十九年八月二十三日 海軍大臣 各鎮守府司令長官 各警備府司令長官 兵器廠ノ件通達 各艦船兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス</p>
<p>記 區分 品名 數稱 數量 摘 削除 廣木式小銃口徑外筋砲 門 定數全部 同用紙拔取ノコト 要</p>	<p>官房備第七三號ノ八 昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス 昭和十九年八月二十四日 海軍大臣 表中第二十一海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄「所員」專任 五人 判任 十二人 「所員」專任 十二人 判任 四人 「所員」ニ改ム (參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(內令提要卷一、六四ノ九頁)</p>	<p>○ 通 牒 海人三機密第一號ノ一七〇 昭和十九年八月二十二日 海軍省人事局長 海軍省醫務局長 各鎮守府參謀長 關係各所轄長 信號術(信號專修) 特技兵講習員ノ選拔及採用ニ關スル件通牒</p>

秘海軍公報 第四七七九號 昭和十九年八月二十四日

本年九月中旬以降採用豫定ノ首題特技兵講習員ハ教育機密第二八〇號通牒教程標準ニ示サレアル通信號術及喇叭術ノ教育ヲ主トスル關係上該講習員ヲ補充兵及國民兵ヨリ採用セラルル場合ニ於テモ各眼視力概ネ〇、八以上(矯正視力一、〇以上)ニシテ特ニ口唇、齒列及胸部ノ缺陷等ナキ者ヨリ選定セラルル様取計ハレ度

追テ信號術(見張專修)特技兵講習員ニ付テハ爲シ得ル限り各眼視力一、〇以上ノ者ヲ選抜相成度

○雜 款

○事務開始

第八號輸送艦艦裝員事務所ヲ八月十五日横濱市三菱造船株式會社横濱造船所内ニ設置シ事務所ヲ開始セリ

○事務所撤去

海防艦沖繩艦裝員事務所ハ八月十六日之ヲ撤去セリ

○殘務整理

第五十一潜水隊ハ五月十五日附解隊殘務整理ハ吳潜水艦基地隊内ニ於テ之ヲ行フ

○正誤

本年內令第九六四號中「第百九十九號(吳)」ハ「第百九十八號(吳)」ノ、同第九六五號中「呂號第六十九」ハ「呂號第六十八」ノ孰モ誤

海軍中尉坂入廣吉八月五日飛行訓練中遭難殉職八月七日高雄海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

海軍少尉鈴木 孝八月十二日飛行訓練中遭難殉職八月十五日霞ヶ浦海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

大東亞戰爭戰歿者故海軍大佐有馬時吉外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來九月三日午前九時鹿兒島市西本願寺ニ於テ佛式ニ依リ執行

本日軍極秘海軍公報第一〇號(乙配付)發行セリ

秘

1884

# 海軍公報

第四七八〇號

昭和十九年八月二十五日(金)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第九九〇號

軍令承行令中左ノ通改定セラレ

昭和十九年八月十八日

内令提  
要登載

海 軍 大 臣

第一條中「(兵)」ヲ削ル

第二條ヲ削ル

第三條中「軍令ヲ承行シ得ベキ海軍各部ノ長必要アリト認ムルトキハ部下ノ」ヲ「將校在ラザルトキハ」ニ、「第一條」ヲ「前條」ニ改メ同條ヲ第二條トス

第四條ヲ第三條トス

第四條 本令中(兵)トアルハ昭和十七年十月三十一日以前ノ規定ニ於テ兵科及飛行科ノ特務士官、准士官及下士官又ハ兵科豫備將校ニ該當スルモノヲ謂フ

第五條ヲ削ル

附 則

本令ハ昭和十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(内令提要卷一、一頁参照)

秘海軍公報 第四七八〇號 昭和十九年八月二十五日

内令第九九一號

軍令承行令ノ特例ニ關スル件左ノ通改定セラレ

昭和十九年八月十八日

海 軍

内令提  
要登載

第一條 當分ノ内軍艦、驅逐艦及潛水艦ニ於ケル軍令ノ承行ニ關シテハ軍令承行令第一條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ル

一 將校(兵)官階ノ上下任官ノ先後ニ依リ順次ニ軍令ヲ承行ス但シ召集中ノ豫備役將校(兵)ノ軍令承行順位ハ軍令承行令第一條ノ規定ニ準ズ

二 將校(兵)在ラザルトキハ將校(機)軍令ヲ承行ス其ノ順位ハ前號ノ規定ニ準ズ

第二條 大東亞戰爭中軍令ヲ承行シ得ベキ海軍各部ノ長必要アリト認ムル場合ハ左ノ各號ニ付軍令承行令第一條及第二條ノ規定ニ拘ラズ部下ノ將校、豫備將校(兵)、特務士官(兵)、准士官(兵)、豫備准士官(兵)及下士官(兵)ヲ通シ官階ノ上下ニ依リ順次ニ軍令ヲ承行セシムルコトヲ得但シ同官階ニ在リテハ軍令承行令第一條及第二條ノ規定ニ準ズ

一 海防艦、輸送艦、水雷艇、掃海艇、驅潛艇、敷設艇、哨戒艇、特務艇、特設砲艦、特設輸送艦、特設特務艇  
二 特設砲艦隊、特設驅潛隊、特設掃海隊、特設哨戒艇隊、

一一四五

特設監視艇隊、特設魚雷艇隊、特設砲艇隊

三 直接護衛中ノ護衛艦艇ヲ以テ編組スル隊、護衛ノ爲編組スル船團、護衛艦艇及船團ヲ以テ編組スル隊

四 陸戰隊編制中ノ大隊以下及警備隊、特別根據地隊等ノ陸上警備科編制中ノ獨立部隊並ニ防空隊、潛水艦基地隊及航空基地隊

五 特設飛行隊、飛行機隊

第三條 當分ノ內將校(兵)トハ昭和十七年十月三十一日以前ノ規定ニ於ケル兵科將校及飛行學生教程ヲ終了セル將校(機)ヲ、將校(機)トハ昭和十七年十月三十一日以前ノ規定ニ於ケル機關科將校(飛行學生教程ヲ終了セル者ヲ除ク)ヲ謂フ

附則

本令ハ昭和十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(內令提要卷一、二頁參照)

內令兵第七〇號

昭和十八年十二月內令兵第一〇〇號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十四日

海軍

大

內令提  
要登載

第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 造兵月報

提出又ハ送付ヲ要セズ

官房需第二二號

昭和十九年官房需第一四二號中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十三日

海軍 大 臣

第三號(ロ)項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

(ロ)ニ 下士官及兵ニ交付スル襦袢、夏襦袢、袴下、夏袴下、手袋、靴下、裪及手拭ハ糊青色ノモノヲ用フルコトヲ得

(參照) 昭和十九年官房需第一四二號ハ被服物品交付等ノ特例ナリ (昭和十九年五月二十四日海軍公報(部内限))

○ 通 牒

海人三機密第二號ノ五六

昭和十九年八月二十四日

海軍省人 事 務 課

內令提  
要登載

關係各廳長殿

上等下士官ニシテ服役延期中ノ者ノ進級ニ關スル件申進

從來上等下士官ニシテ服役延期中ノ者ハ服役延期停止ノ際進士官ニ特殊進級セシメ引續キ充員召集ヲ令セラレタル處自今海軍武官服役令第八條第一項ノ規定ニ依ル現役ニ服スルコトヲ志願スル者ハ銓衡ノ上現役ノ儘進士官ニ進級セシメラルルニ付志願者ニ對シテハ拔擢名簿及考課表等ニ其ノ旨附記ノコトニ取計相成度

艦本機密第一二號ノ一四三二五

昭和十九年八月二十日

海軍艦政本部長  
海軍航空本部長

内令様  
要登載

關係各海軍工作廳長殿

修理工事査定通知ニ關スル件通知

大東亞戰爭中艦船造修規則及兵器造修規則ニ基ク修理請求工事ノ査定決定ヲ工作廳ヨリ請求元ヘ通知ノ件ハ工作廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノノ外之ヲ省略シ差支無之候

艦本機密第一二號ノ一四三二六

大東亞戰爭中艦船主要工事月報ハ昭和十四年艦本機密第一〇號ノ規定ニ拘ラス別紙様式ニ依ルモノトス

昭和十九年八月二十日

海軍艦政本部長

(別紙)

第六號様式(用紙ノ大サハ JIS B5)

機密區分番號

昭和 年 月 日

宛 應 名 圖

艦船主要工事月報

艦名	訓令又ハ通牒	工事名	現 狀	指定	記 事
	年月日番號			完成期	

調製心得

- 一 本表ニハ主要工事ノミヲ記載スルモノトス
- 二 工事ニシテ主トシテ外註工事ニ依ルモノハ其ノ旨記註スルモノトス
- 三 現狀欄ハ左ノ符號ヲ以テ記註スルモノトス

符號	現 狀
(イ)	未 着 手
(ロ)	工 事 完 了
(ハ)	工 事 中 (竣工豫定期)
(ニ)	準 備 完 了 (機曾ヲ待チ行フ)

四 艦別(驅逐艦及水雷艇ハ隊別)ニ各別紙ニ調製シ之ヲ取纏メ一括シ紙捻ヲ以テ右端ヲ綴リ一通ト爲スモノトス

○ 表 彰

「フラップ」操作装置	飛行機部 製圖工手 菊地 又吉
金六拾圓	飛行機部 元製圖工手 廣田 武夫
同轉風房同轉軸上下装置	同 同 鈴木 俊治
金百圓	飛行機部 製圖工長 小泉 啓助
同 機構式照準器	同 製圖職手 安西 賢治
金百圓	
同 飛行機部	
金五拾圓	

秘海軍公報 第四七八〇號

昭和十九年八月二十五日

一一四七

<p>飛行機部 一等製圖員 國司 英夫          空氣整流板連動抵抗板操作機構          金貳百五十拾圓 飛行機部 元製圖工手 廣田 武夫          金百五十拾圓 同 高野 幸一</p>	<p>「ヒシライト」切斷線取及三層安全硝子切面仕上機          金五十拾圓 飛行機部 組立工手 北澤 留作          金參拾圓 同 一等組立員 堀田 隆</p>	<p>右者各肩書ノ考案ヲ爲シ各頭書ノ通海軍航空技術廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ          彈腔噴霧塗裝裝置          金參拾圓 爆彈部 塗裝職手 高木 春水          右者肩書ノ考案ヲ爲シ頭書ノ通光海軍工廠長ヨリ技術賞與ヲ支給セラレタリ</p>	<p>○雜款</p>	<p>○事務開始          呂號第五十五潜水艦艇裝員事務所ヲ八月十九日岡山縣玉野市三井造船株式會社玉野造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ          第三百三十三設營隊事務所ヲ八月十五日舞鶴市宇公文名舞鶴海軍施設部第一設營班内ニ設置シ事務ヲ開始セリ          驅逐艦樞機裝員事務所ヲ八月十五日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>		
<p>信濃艦裝員事務所ヲ八月十七日横須賀海軍工廠内小海棧橋前ニ設置シ事務ヲ開始セリ          伊號第三百六十九潜水艦艇裝員事務所ヲ八月二十日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>		<p>○正誤          八月十九日附秘海軍公報令達欄一一二頁下段内令第九六五號ノ項中「呂號第六十九」ハ「呂號六十八」ノ誤、八月二十一日秘海軍公報通牒欄一一三頁上段軍需欄第一三五號中第一米ノ部一行目「玄米」ノ下ニ「ヲ精米」ヲ脱ス</p>			<p>○本日軍極秘海軍公報第一一號(甲配付)發行セリ</p>	





# 海軍公報 第四七八一號

昭和十九年八月二十六日(土)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房機密第八九三號

海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

第一條第一項中「當分ノ間」ヲ削リ「軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタルモノ」ヲ「本令中特ニ定メタル者」ニ改メ同條第二項中「在外海軍部隊艦船臨時給與令及」ヲ削ル

第一條ノ二 軍人軍屬ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ俸給、給料(報酬ヲ含ム以下之ニ同ジ)及増俸ハ其ノ月分ヲ含ミ三月以内ニ於テ前金拂ヲ爲スコトヲ得

- 一 戦地ニ在ルトキ
- 二 戦地ト戦地外トノ間又ハ戦地相互間ヲ赴任、轉勤又ハ一時往復スルトキ
- 三 對敵ノ行動ヲ取ル爲メ出發スルトキ

第一條ノ三 資金前渡官吏ト分離行動ヲ爲ス潜水艦(潜航艇ヲ含ム)ノ乗員ニハ必要ニ應ジ出航ノ際其ノ月ヲ含ミ二月分以内ノ航海加俸、潜水艦加俸、潜水艦特別任務加俸、潜航艇加俸、特別加俸及航空加俸ニ付前金拂ヲ爲スコトヲ得

第一條ノ四 戦地ニ在ル者、派遣セララルル者若ハ一時往復スル者又ハ戦地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者死亡シタルトキハ死亡公表ノ日ノ屬スル月分迄俸給、給料及増俸ヲ支給ス但シ死亡公表シタル場合ト離モ前金拂ヲ爲シタル俸給、給料及増俸ニ付テハ前金拂ノ日ノ現在ノ俸給、給料及増俸ニ依リ其ノ前金拂ニ係ル月分迄之ヲ支給ス

前項ノ規定ハ賞與及臨時家族手當ノ支給ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ五 海軍部内ニ於テ所屬ヲ轉ジタル軍人軍屬ニシテ俸給、給料支給定日前退廳スルモノニ支給スベキ其ノ月ノ俸給又ハ給料ハ海軍給與令施行細則第十三條第一項、第二項及雇員補入給與規則第六條第二項ノ規定ニ拘ラズ前勤務退廳ノ際其ノ月分ノ全額ヲ支給ス但シ既ニ前金拂ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ特別加俸ノ支給ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ前勤務廳ニ於テ支給シタル俸給、給料又ハ特別加俸ニシテ前勤務廳退廳後生ジタル事由ニ依リ過拂又ハ不足拂ト爲リタル金額ハ海軍給與令施行細則第一百七十一條ノ規定ニ拘ラズ後勤務廳ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

第一條ノ六 特別加俸ハ海軍給與令施行細則第四十條ノ規定ニ依リ日額ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做シ之ヲ支給ス但シ加俸

秘海軍公報 第四七八一號 昭和十九年八月二十六日

一四九

ヲ支給スベキ事山ノ期間一月ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條ノ七 戰地ニ於テ軍人文官同待遇者ニ支給スル俸給ニ付テハ國庫納金ノ控除ヲ要セズ艦船ノ乗員又ハ艦船ニ乗組ヲ命ゼラレタル者ニシテ本邦(千島諸島、小笠原諸島、新南群島及南洋群島ヲ除ク)ノ港域外ニ在ル場合其ノ月艦船ニ於テ支給スル俸給ニ付亦同ジ

第二條第一項中「前條」ヲ「第一條」ニ改メ同條第二項中「在勤加俸」ノ下ニ「在勤増給」ヲ加フ

第二條ノ二中「前條」ヲ「第一條」ニ改メ同條ヲ第二條ノ三トス  
第二條ノ二 艦船乗員又ハ艦船ニ乗組ヲ命ゼラレタル軍人軍屬ニシテ戰地ニ在ルモノ、派遣セララルモノ又ハ一時往復スルモノニハ左ノ區分ニ依リ増俸ヲ支給ス

一 准士官以上、候補生及見習尉官ニ在リテハ俸給ノ五分ノ二但シ尉官、候補生、見習尉官及准士官ニシテ増俸月額三十五圓ニ滿タザルトキハ月額三十五圓

二 下士官兵ニ在リテハ俸給ノ二分ノ一

三 文官同待遇者(部内限文官待遇者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ在リテハ俸給(報酬ヲ含ム)ノ五分ノ二但シ判任文官同待遇者ニシテ増俸月額三十圓ニ滿タザルトキハ月額三十圓  
四 雇員(無待遇嘱託者ヲ含ム以下之ニ同ジ)及傭人ニ在リテハ給料ノ二分ノ一  
前項ノ規定ハ軍人軍屬ニシテ戰地ニ赴任、轉勤又ハ一時往復

スルモノニ付出發ノ日ヨリ到着又ハ歸着ノ日迄ノ期間ニ付之ヲ適用ス

第二條ノ四 第二條及第二條ノ二ノ規定ニ依リ増俸ヲ受クベキ者第一條ニ掲グル地域外ニ在ル學校、海兵團其ノ他ノ各部ニ於テ實施スル講習ニ講習員トシテ派遣セララル場合ハ當該規定ニ拘ラズ目的地着ノ翌日ヨリ其ノ地出發ノ前日迄准士官以上候補生、見習尉官及文官同待遇者ニ在リテハ俸給ノ五分ノ一、下士官兵及雇員傭人ニ在リテハ俸給又ハ給料ノ四分ノ一ノ増俸ヲ支給ス

第五條ノ二 艦船ニ乗組ノ嘱託者、雇員及傭人ニハ第二表ノ二ニ依リ航海増給ヲ支給ス

第三條ノ二乃至第五條ノ規定ハ前項ノ航海増給ニ付之ヲ適用ス

第五條ノ三 艦船ノ破壊又ハ沈没シタル場合ニ於テ該艦船ノ乗員又ハ該艦船ニ乗組ヲ命ゼラレタル者ニ支給スル航海加俸又ハ航海増給ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 艦船ノ解役命令受領ノ日迄、解役命令受領前轉出スル者ニ在リテハ轉出ノ日迄該艦船ノ乗員トシテ受クベキ額

二 解役命令受領前陸上部隊其ノ他ノ各部ニ於テ殘務整理ニ従事スル場合ハ其ノ期間該艦船乗員トシテ受クベキ額

第五條ノ四 支那ニ在ル陸上部隊及其ノ他ノ各部ニ勤務スル軍人軍屬ニシテ家族ト同居スルモノニハ第二表ノ四ニ依リ特別手當ヲ支給ス

第五條ノ五 前條ノ家族トハ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）及十八歳未満ノ子ヲ謂フ

第五條ノ六 第五條ノ四ノ特別手當ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ支給セズ

- 一 年齢二十五歳未満ノ雇員及傭人
- 二 一年未満ノ豫定ヲ以テ支那ニ勤務スル者
- 三 二年未満ノ豫定ヲ以テ海軍ニ勤務スル者
- 四 艦船乗員又ハ艦船乗組ノ配置ニ在ル者
- 五 海軍部外ニ在官又ハ在職スル者
- 六 臨時勤務者
- 七 支那以外ニ在ル海軍各廳ニ本務ヲ有スル者ニシテ支那ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ兼務スルモノ但シ特別ノ事情アル者ヲ除ク
- 八 其ノ他所屬長官ニ於テ支給ヲ要セザルモノト認ムル者

第五條ノ七 特別手當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 家族軍人又ハ軍屬ノ在勤廳所在地ニ到着ノ日ヨリ軍人又ハ軍屬退廳ノ日又ハ家族軍人又ハ軍屬ノ勤務廳所在地ニ在ラザルニ至リタル日迄
- 二 任用、進級又ハ轉職ニ依リ手當ノ額ニ異動ヲ生ジタルトキハ増額ハ辭令受領又ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ、減額ハ其ノ翌日ヨリ
- 三 所屬ヲ轉ジタル場合ニ於テ新舊兩廳ニ跨ル日ノ特別手當

ハ舊勤務廳ニ於テ之ヲ支給ス

第六條中「准士官以上」ノ上ニ「戦地ニ在ル」ヲ加フ

第八條中「准士官以上」ノ上ニ「戦地ニ在ル」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ戦地外ニ在リテ艦船ニ乗組ヲ命ゼラレタル喫託者、雇員傭人ニ付之ヲ準用ス

第八條ノ二 前條及海軍給與令第七十九條ノ二ノ規定ニ依リ食料ノ支給ヲ受クル者ニシテ服務午後九時以後ニ及ブトキハ各規定食料ノ一食分ヲ夜食料トシテ支給ス

前項ノ規定ハ海軍給與令第八十七條ニ依リ常時食料ノ換給ヲ受クル者ニ付之ヲ適用ス

第九條 第五條ノ四ノ規定ニ依リ特別手當ノ支給ヲ受クル者ニハ第四表ノ二ニ依リ粗食及薪炭ヲ給與シ第四表ノ三ニ依リ家具ヲ貸與ス

前項ノ規定ニ依リ粗食ノ給與ヲ受クル者ニハ前項以外ノ他ノ規定ニ依ル粗食ハ之ヲ給與セズ

第十條ノ二中「第四表ノ二」ヲ「第四表ノ四」ニ改ム

第十一條ノ二 文官同待遇者（部内限文官待遇者ヲ除ク）ニシテ戦地ニ在ルモノ、派遣セララルモノ若ハ一時往復スルモノ又ハ艦隊ニ勤務スルモノニハ海軍戦時給與規則施行細則第九條ノ二ノ規定ニ拘ラズ服装手當トシテ一回限り高等文官同待遇者ニ在リテハ百二十圓、判任文官同待遇者ニ在リテハ百十圓ヲ支給ス

第十三條ヲ削リ第十二條ヲ第十三條トス

第十二條 准士官以上、候補生、見習尉官及軍屬（海軍徵備船

船船員ヲ除ク）ニシテ戰地ニ在ルモノ、派遣セラルルモノ若

ハ一時往復スルモノ又ハ戰地ニ在ラザルモノ特別ノ命令ニ依リ

對敵ノ行動ヲ取ルモノ乘組艦船ノ破壊沈没又ハ航空機ノ事故

其ノ他不可抗力ニ依リ被服物品ヲ亡失シ又ハ毀損シ使用ニ堪

ヘザルニ至リタルトキハ所轄長ハ海軍戰時給與規則施行細則

第十七條ノ規定ニ拘ラズ第四表ノ五又ハ第四表ノ六ノ範圍内

ニ於テ遭難服裝手當又ハ被服物品（准士官以上、候補生及見

習尉官ニ限ル）ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ遭難服裝手當又ハ被服物品ヲ支給シタルト

キハ海軍給與令第五十六條及條六十二條ノ規定ハ之ヲ適用セ

ズ

第一項ノ規定ニ依ル遭難服裝手當又ハ被服物品ハ遭難者初メ

テ本邦港灣ニ到着シタルトキ該港灣ヲ警備區トスル鎮守府又

ハ警備府所在地ノ海軍經理部又ハ海軍軍需部ニ於テ之ヲ支給

スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ被服物品ヲ支給シタルトキハ遭難者ノ所轄

長又ハ殘務整理班ノ所屬鎮守府所在地ノ海軍軍需部長ニ之ヲ

通報スルモノトス

第十六條中「第二表ノ二」ヲ「第二表ノ三」ニ改ム

第十七條中「在外海軍部隊艦船臨時給與令第四條」ヲ「第五條

ノ四」ニ改ム

第二十條 戰地ニ在ル帝國大使館附武官同輔佐官及同附屬ニ駐

在員ニシテ海軍給與令第二十二條又ハ昭和十八年官房經第一

三六八號ノ規定ニ依リ在勤加俸ノ支給ヲ受クベキモノニハ戰

時増俸ハ之ヲ支給セズ

第二十一條 雇員（判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ除ク）又ハ傭人

大東亞戰爭ニ關スル勤務ニ從事シ左ノ各號ノ一ニ該當スルト

キハ雇員傭人給與規則第十四條ノ規定ニ拘ラズ各號所定ノ臨

時増給ヲ爲スコトヲ得

一 戰死シタルトキ又ハ戰傷ヲ受ケ之方爲該戰傷ノ日ヨリ三

年以内ニ危篤ニ陥リ若ハ健康上將來雇員、傭人タルニ適セ

ズ解雇、解傭セララルトキ

雇員、傭人長 月給 四回五十錢以内

傭人（傭人長ヲ除ク） 月給 十五錢以内

二 戰地又ハ特殊地域（戰地トノ接壤地域又ハ戰地ト緊密ナ

ル關係ヲ有スル航空部隊ノ基地ヲ謂フ）ニ於テ業務上戰傷

以外ノ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之方爲該負傷又ハ該罹病

ノ日ヨリ三年以内ニ危篤ニ陥リ又ハ健康上將來雇員、傭人

タルニ適セズ解雇、解傭セララルトキ

雇員、傭人長 月給 三回以内

傭人（傭人長ヲ除ク） 月給 十錢以内

三 戰地ニ於テ前二號ニ規定スルモノ以外ノ傷痕ヲ受ケ又ハ

疾病ニ罹リ之方爲該負傷又ハ該罹病ノ日ヨリ三年以内ニ危

篤ニ陥リ又ハ健康上將來雇員、傭人タルニ適セズ解雇、解

備セラルトキ  
 職員、備人長 月給 一圓五十錢以内  
 備人(備人長ヲ除ク) 日給 五錢以内

第二十二條 軍人軍屬ニシテ戦死、戦傷死其ノ他公務ニ起因シ死亡シタル場合死後ノ日以後支給スベキ給與ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給スルコトヲ得死後前支給スベカリシ給與ニシテ其ノ支給未済ノモノニ付亦同ジ

一 士官、候補生及見習尉官ニ在リテハ海軍省經理局  
 二 特務士官、准士官、下士官及兵ニ在リテハ在籍ノ鎮守府又ハ警備府ノ海軍經理部  
 三 文官同待遇者、雇員、備人、工員及鑛員ニ在リテハ其ノ所屬廳ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部但シ派遣元廳アル者ニ付テハ其ノ派遣元廳  
 四 前各號ニ該當セザル者ニ在リテハ海軍省經理局

合同葬儀ヲ行フ場合ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ合同葬儀ヲ行フ地ノ所管ノ鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部(東京都ニ在リテハ海軍省經理局)ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ新ニ部外ヨリ任用又ハ採用セラレ戦地ニ赴任スル者共ノ着任前退職又ハ死後シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 支出官又ハ資金前渡官吏前條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ海軍給與令施行細則第百六十九條ノ規定ニ準ジ給與上必要ナル事項ヲ當該支出官ニ通知スルモノトス

第二十四條 戦争ニ關シ戦地外ノ本邦ニ於テ繁劇ナル職務ニ從

事スル各廳ノ准士官以上、候補生、上等下士官及軍屬ニハ海軍戦時給與規則施行細則第二十六條ノ規定ニ拘ラズ第六表ニ依リ戦時食料ヲ支給ス

第二表ノ二ヲ第二表ノ三トス  
 第三表中「第三表宿舍手當」ヲ「第三表ノ(ロ)宿舍手當(支那、佛領印度支那以外ノ戦地ニ在ル部隊其ノ他ノ各部)ニ改メ同表ノ前ニ第三表ノ(イ)トシテ別表ノ如ク加フ  
 第四表ノ二ヲ第四表ノ四トス

附則  
 本令ハ昭和十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 在外海軍部隊艦船臨時給與令施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ適用ヲ停止ス  
 當分ノ間海軍戦時給與規則施行細則第十六條ノ規定及海軍戦時旅費規則ハ之ヲ適用セズ  
 昭和十八年官房經第一一九七號第二項ヲ削ル(海軍會計法規類集二卷 七五八ノ六頁)  
 左ノ令達ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
 昭和十九年達第八四號  
 (海軍會計法規類集二卷 八〇八ノ一七頁) **終**  
 昭和十三年官房第三八七三號  
 (海軍機密會計法規類集 一一五頁)  
 昭和十五年官房第三九三二號  
 (海軍會計法規類集二卷 二二〇頁)

秘海軍公報 第四七八一號 昭和十九年八月二十六日



軍務一機密第七八〇號

昭和十九年八月二十五日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長  
各警備府參謀長  
各艦隊參謀長

不發彈處理實施要領中改正ノ件通知

昭和十八年七月九日軍務一機密第五七〇號首題要領中左記ノ通知改正ス

追テ所要要具中燧夷筒及爆破藥ハ各軍需部ヨリ供給セシメラルル共ノ他ハ各所轄ニ於テ準備ノコトニ取計相成度

記

第四章爆彈處理要領第一、一般要領第五項ヲ左ノ如ク改正ス

一 爆彈落達シ約六十時間經過後處理作業ヲ開始スルト共ニ之ヲ簡易化シ極力處理時間ヲ短縮スルモノトス

但シ左ノ場合挺身急速處理スベキモノトス

(イ) 極メテ重要ナル施設ニシテ不發爆彈ノ爆發ニ依リ被害大

ト豫想セラルル場合

(ロ) 飛行場、重要鐵路、國道ノ如キ急速復舊ヲ要スル場合

經給第一五四號

昭和十九年八月十七日

海軍省兵備局長  
海軍省經理局長

關係各廳長殿

秘海軍公報 第四七八一號 昭和十九年八月二十六日

戰歿工員ノ特別進級及特別昇級ニ關スル件依命  
申進

今般官房經第六七九號ヲ以テ首題ニ關シ別紙ノ通次裁相成候處  
之方處理ニ關シ左記ノ通定メラレ候

記

一 特別進級及特別昇級ヲ實施スルハ當該地域ニ於テ敵ノ上陸  
ニ依ル戰鬪ニ因リ對敵ノ行動ヲ取り之方爲戰死シ功績特ニ顯  
著ナル場合ニ限ルモノトス

二 當該工員ノ所屬スル廳(廳在ラザルトキハ當該廳ノ所屬シ  
タル廳又ハ艦船部隊殘務整理班以下之ニ同ジ)ノ長前號ニ該  
當スル者アルトキハ所屬長官ニ對シ其ノ功績顯著ナルモノニ  
付特別進級及特別昇級ノ其中ヲ爲スモノトス但シ所屬長官必  
要アリト認メタルトキハ當該工員ノ特別進級及特別昇級ヲ令  
達スルコトヲ得

三 特別進級及特別昇級者ニ對シ戰死ノ日以後支給スベキ給與  
ハ當該工員ノ所屬スル廳ノ所管鎮守府又ハ警備府所在地ノ海  
軍經理部(派遣元廳アル者ニ付テハ其ノ派遣元廳、所管ノ鎮  
守府又ハ警備府ノナキ者、派遣元廳ナキ者及特設燃料廠補給  
部ヲ派遣元廳トスル者ニ付テハ海軍省經理局)ニ於テ支給ス  
ルモノトス

四 當該工員ノ所屬スル廳ノ給與掌理者ハ左記事項ヲ記載シタ  
ル給與通牒ヲ前號ノ經理部、經理局又ハ派遣元廳ニ送付スル  
モノトス

<p>(一) 級別、給料等級(特別進級及特別昇級前ノ級別、給料等級共)氏名</p> <p>(二) 戦死ノ年月日</p> <p>(三) 戦死ノ日以後支給スベキ給與ノ種類及金額(既ニ支給済ノモノアルトキハ其ノ種類及金額共)</p> <p>(四) 遺族又ハ給與受領代理人ノ住所、氏名</p> <p>(五) 家族下渡又ハ派遣元應アルモノハ其ノ下渡應又ハ派遣元應</p> <p>五、 經理部、經理局又ハ派遣元應前號ノ給與通牒ヲ受ケタルトキハ正當受給者ニ對シ速ニ之方支給ノ手續ヲ爲スモノトス</p> <p>(別紙)</p> <p>官房經第六七九號 (昭和十九年七月二十日決裁)</p> <p>戦歿工員ノ特別進級並ニ特別昇級ノ件仰裁</p> <p>「アツツ」「タラワ」「マキン」「クエゼリン」「ルオット」「ニユ一ギニヤ」島(附近諸島ヲ含ム)「ソロモン」諸島ニ於ケル敵ノ上陸戦闘ニ於テ奮戦ノ結果戦死セル工員ニシテ所屬長官ニ於テ功績特ニ顯著ナリト認メタル者ニ對シ戦死ノ日附ニ遡リ戦時海軍工員規則第二十條及第五十八條ノ規定ニ拘ラズ左記ニ依リ進級及昇級セシメ可然哉</p> <p>記</p> <p>一、進級 全員工長トス</p> <p>二、昇級 戦死當時ノ給料ノ十割以内</p>	<p>○ 雜 款</p> <p>内令提要別冊(定員關係)追録第三號(七月十五日現在)八月二十五日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度</p> <p>十版内令提要追録第十七號(七月十五日現在)八月二十三日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度</p> <p>(海 軍 省 副 官)</p> <p>○ 閉 隊</p> <p>非島海軍航空隊ハ七月十日附編制同月二十日閉隊セリ</p> <p>第二高雄海軍航空隊ハ八月十五日高雄州岡山郡彌陀庄ニ閉隊セリ</p> <p>元山海軍航空隊ハ八月十五日朝鮮咸鏡南道元山府ニ閉隊セリ</p> <p>追テ大村海軍航空隊元山分遣隊ハ同日解隊殘務整理ハ元山海軍航空隊ニ於テ之ヲ行フ</p> <p>勤務地(家族移轉料金ヲ含ム)ハ元山(京元線元山驛下車、驛隊間徒歩約四十五分)ナリ</p> <p>(元山海軍航空隊)</p> <p>○本日軍極秘海軍公報第二二號(乙配付)發行セリ</p> <p>○本日普通公報發行セズ</p>
--	--



(官房経機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日祕海軍公報)

前項ニ該當セザル雇員、傭人	傭人		雇員		區別	戰地ニ在ル雇員、傭人	部内限制任待遇者	前項ニ該當セザル者	部内報酬三六〇圓以上ノ者	部内限制任待遇者	區分
	同	日給三十日分額以上	同	四十四圓以上額							
朝鮮ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船乗組ノ雇員傭人ニハ給料ノ五割ヲ支給ス	同	日給三十日分額以上	同	四十四圓以上額	北緯四十四度以南同二十度以千島諸島ヲ除ク	給料ノ十分ノ十但シ月額六十五圓ニ滿タザルトキハ十分ノ十六ヲ超エザル範圍内ニ於テ六十五圓迄ヲ支給スルコトヲ得	同	同	同	第二表ニ定ムル各科少尉ノ額	航海増給
臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船乗組ノ雇員傭人ニハ給料ノ五割ヲ支給ス	三十六圓未滿	三十六圓以上	四十圓未滿	四十圓以上額	北緯四十四度以南同二十度以千島諸島ヲ除ク		同	同	同	各科少佐ノ額	
朝鮮又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船乗組ノ雇員傭人ニハ給料ノ五割ヲ支給ス	六	十	十	二	北緯四十四度以南同二十度以千島諸島ヲ除ク		同	同	同	各科少尉ノ額	
臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船乗組ノ雇員傭人ニハ給料ノ五割ヲ支給ス	九	十	二	二	北緯四十四度以南同二十度以千島諸島ヲ除ク		同	同	同	各科少佐ノ額	
朝鮮又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船乗組ノ雇員傭人ニハ給料ノ五割ヲ支給ス	九	七	一	八	北緯四十四度以南同二十度以千島諸島ヲ除ク		同	同	同	各科少尉ノ額	

(官房經機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日秘海軍公報)

考 備	第二表ノ四 特別手当							
	區	分	月	額	區	分	月	額
一 親補ノ職ニ在ル中將ノ特別手当ハ大將ノ額トス 二 囑託者ニシテ勅任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ少將ノ額、奏任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ報酬月額ニ百七十圓以上ノ者ハ少佐ノ額、同二百七十圓未滿ノ者ハ中、少尉ノ額、判任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ下士官ノ額ニ依ル	大將	親高等文任官		四〇〇 <small>圓</small>	各科大尉	高等文官六等		一四〇 <small>圓</small>
	各科中將	同高等文官一等		三五〇	各科中尉	同高等文官七等以下		一三〇
	各科少將	同高等文官二等		三〇〇	准士官	同判任文官一等		二二〇
	各科大佐	同高等文官三等		二五〇	陸上勤務士官外	同判任文官二等以下		一〇〇
	各科中佐	同高等文官四等		二一〇	囑託員、雇員、傭人			八〇
	各科少佐	同高等文官五等		一七〇				

(官房經機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日祕海軍公報)

第三表(イ) 宿舍手当當

(支那、佛領印度支那ニ在ル部隊其ノ他ノ各部)

考 備	區					分	月	額	
	各科少佐	各科中佐	各科大佐	各科少將	各科中將				
一 囑託者ニシテ勅任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ少將ノ額、奏任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ報酬月額二百七十回以上ノ者ハ少佐ノ額、同二百七十回未滿ノ者ハ中、少尉ノ額、判任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ下士官ノ額ニ依ル 二 當分ノ間北京、天津、青島、南京、上海、厦門、香港、廣東、澳門及廣州灣ニ在リテハ本表定額ノ五割以内、其ノ他ノ部隊司令部所在地ニシテ特ニ必要アル地ニ在リテハ本表定額ノ四割以内ヲ増額スルコトヲ得 三 前號以外ノ地ニシテ土地ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ本表定額ノ二割以内ヲ増額スルコトヲ得 四 前二號ノ地區區分及支給金額ハ所屬長官海軍大臣ノ認許ヲ受ケ之ヲ定ム	同高等文官五等者	同高等文官四等者	同高等文官三等者	同高等文官二等者	同高等文官一等者				
	九〇	一一〇	一四〇	一七〇	二二〇 <sub>四</sub>				
	宿外務勤上陸兵官士下	兵	下士官	准士官	各科中、少尉(特務士官タル各尉ヲ含ム)	各科大尉(特務士官タル各尉ヲ含ム)	分	月	額
	囑託員、雇員、傭人	同判任文官二等以下者	同判任文官一等者	同高等文官七等以下者	同高等文官六等者				
	四〇	五〇	六〇	六〇	七〇 <sub>四</sub>				

(官房經機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日祕海軍公報)

考 備	石	食砂 鹽糖	醬味 油噲	精 米		品 目	量	額	記 事
				大人	小人				
一 本表ノ糧食及薪炭ハ家族軍人又ハ軍屬ノ在勤應所在地ニ到着ノ日ヨリ家族軍人又ハ軍屬ノ勤務應所在地ニ在ラザルニ至リタル日迄之ヲ支給ス 二 旅費ノ支給ヲ受クル期間其ノ本人ニ對スル分ノ糧食ハ之ヲ支給セズ 三 本表ニ於テ小入ト稱スルハ數ヘ年十歳以下ノ者ヲ謂フ	炭					一人日量			
	一家族月量								
	九〇砵	一一五瓦	〇、三三五立	二四〇〇瓦					
	木炭、薪等ヲ以テ石炭ニ代用スルヲ適當ト認ムル場合ハ當該地ニ於テ石炭使用ニ要スル經費ノ範圍内ニ於テ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ換給スルコトヲ得		所屬長官必要ト認ムルトキハ量額ノ割合ヲ以テ相互換給スルコトヲ得						

(官房経機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日海軍公報)

考 備	窓 日 覆	移動式炊事用 棚	据 風 呂	衣 類 箱	茶 箆 筒	皿 棚	食 器 棚	食 卓 椅子	食 卓	書 棚	廻 轉 椅子	机	疊	椅子			小 卓 子	卓 子	名 稱 級
														小 椅子	膝 掛	長 椅子			
一 囀託者ニシテ勅任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ少將、奏任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ報酬月額二百七十圓以上ノ者ハ佐官、同二百七十圓未滿ノ者ハ尉官、判任官ノ待遇ヲ受クルモノニ在リテハ判任文官ニ付定ムル所ニ依ル 二 疊敷込式ニ非ザル寢室ノ設備ヲ有スル宿舍ニハ本表定數ノ外更ニ疊ヲ備附クルコトヲ得 三 各種布張製椅子ニハ必要ニ應ジ椅子覆ヲ附スルコトヲ得 四 本表ノ家具ハ所屬長官ニ於テ必要ト認メタル場合ハ適宜類似ノ物品ヲ流用貸與シ又ハ貸與セザルコトヲ得								二	二				二〇	六	二	二	同 一 高 中 待 遇 者 等 官 將		
								八	一				二〇	四	二	一	一	同 二 高 少 待 遇 者 等 官 將	
														一六	二	一	一	同 三 高 佐 待 遇 者 等 官 官	
														一四	二		一	同 六 高 尉 待 遇 者 等 官 官	
														一一	二		一	判 任 文 官 同 待 遇 者	
														八	二		一	雇 員 陪 人 同 待 遇 者	
																	摘 要		

(官房經機密第八一九號別表)

考 備	雇 員 備 入 其 ノ 他	部判 内任 限文 判官 任同 待遇 者者	同部高 内等 限文 奏勅官 任任同 待待待 遇遇遇 者者者	准 士 官	見候 習 補 尉 官生	特尉 務 士 官官	佐 官	將 官	區 分 金 額	第四表ノ五 遭 難 服 裝 手 當
		二〇〇圓以内	三〇〇圓以内	四〇〇圓以内	一五〇圓以内	四五〇圓以内	五〇〇圓以内	五五〇圓以内		

本表ノ手當ヲ受クル者ニハ被服物品ハ之ヲ給與セズ但シ所轄長、海軍經理部長又ハ海軍軍需部長特ニ必要アリト認メタルトキハ本表ノ金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當及被服物品ヲ併給スルコトヲ得

(昭和十九年八月二十六日祕海軍公報)

(官房経機密第八一九號別表)

考 備	軍 服			被 服			物 品		
	品 名	數 量	備 考	品 名	數 量	備 考	品 名	數 量	備 考
一 本表ノ範圍内ニ於テ給與スル被服物品ノ代價ノ合計額ハ第四表ノ五ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ 二 本表ノ被服物品ヲ受クル者ニハ臨時手當ハ之ヲ支給セズ但シ所轄長、海軍經理部長又ハ海軍軍需部長特ニ必要アリト認メタルトキハ第四表ノ五ノ金額ノ範圍内ニ於テ臨時手當及被服物品ヲ併給スルコトヲ得	軍 衣 袴	二 組		編 上 靴	一 組		肩 章	二 組	
	夏 衣 袴	二 組		半 靴	二 組		開 襟 シ ャ ツ	二 個	
	略 衣 袴	二 組		飾 緒	一 個		白 シ ャ ツ	三 個	
	軍 帽	一 個		雨 衣	一 個		夏 袴	二 個	
	帽 日 覆	一 個		行 李	一 個		夏 襦 袢	二 個	
	軍 帽	一 個		脚 絆	一 組		袴	二 個	
	略 衣	二 組		カ ラ	一 個		襦 袢	二 個	
	夏 衣	二 組		外 套	一 個		手 袋	二 組	
	軍 衣	二 組		釧 帶	一 個		靴	四 組	
	品 名	數 量		品 名	數 量		品 名	數 量	
	刀	一 個		品 名	數 量		品 名	數 量	

(昭和十九年八月二十六日秘海軍公報)

(官房経機密第八一九號別表)

(昭和十九年八月二十六日秘海軍公報)

第六表 戦時食料	
官等	一食金額
將官、勅任文官、同待遇者	六十五錢
佐尉官、特務士官、候補生、 見習尉官、 奏任文官、同待遇者	五十錢
准士官、上等下士官(樺太以外ノ内地陸上勤務外宿中ノ一、二級俵ノ者)、 判任文官、同待遇者	四十錢
雇員	三十五錢
官等	一食金額
備	
一 居殘服務ヲ命ゼラレ執務午後六時以後ニ及フトキハ二食分ヲ支給スルコトヲ得但シ居殘服務翌朝ニ及ブ者及諸切服務者ニハ三食分ヲ支給スルコトヲ得	
二 夜間勤務ヲ命ゼラレ午後七時以前出務シ翌朝午前六時以後ニ及ブ者ニハ二食分ヲ支給スルコトヲ得但シ公暇日ノ午後七時以前出務シ翌朝午前六時以後ニ及ブ者ニハ三食分ヲ支給スルコトヲ得	
三 公暇日ニ出動ヲ命ゼラレ執務四時間以上ニ及フトキハ二食分ヲ支給スルコトヲ得但シ執務午後六時以後ニ及ブ者ニハ其ノ食數ニ應ジ三食分ヲ支給スルコトヲ得公暇日諸切服務者ニ付亦同ジ	
四 糧食若ハ他ノ規定ニ依ル食料又ハ旅費ノ支給ヲ受クル者ニハ本表ノ戦時食料ヲ支給セズ	
五 軍屬タル囑託者ハ其ノ受クル待遇官等ニ依ル	
六 本表ニ依ル戦時食料ヲ支給シタルトキハ所轄長ハ四月及十月ニ於テ前六月間ノ受給者ノ官等(勅任、奏任、判任、雇人、傭人)別員數金額ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス	
考	





# 海軍公報 第四七八二號

昭和十九年八月二十七日(日)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第九九二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

内令提  
要登載

驅逐艦、一等秋月型ノ項中「宵月」ノ下ニ、「花月」ヲ、同松  
 型ノ項中「樺」ノ下ニ、「檜、櫻、柳、椿」ヲ加フ  
 潜水艦、伊二百一型ノ項中「伊號第二百一」ノ下ニ、「伊號第  
 二百二、伊號第二百三」ヲ、同三等波百一型ノ項中「波號第百  
 二」ノ下ニ、「波號第百三、波號第百四、波號第百五、波號第  
 百六」ヲ加フ  
 海防艦、御藏型ノ項中「昭南」ノ下ニ、「久米」ヲ、同鷓來型  
 ノ項中「粟國」ノ下ニ、「屋久」ヲ、同第一號型ノ項中「第三  
 十九號」ノ下ニ、「第四十一號」ヲ、同「第四十三號」ノ下  
 ニ、「第四十五號、第四十七號、第四十九號」ヲ、同「第六十  
 一號」ノ下ニ、「第六十三號、第六十七號、第八十三號、第九十  
 三號、第二百五號、第二百七號」ヲ、同第二號型ノ項中「第四  
 十六號」ノ下ニ、「第四十八號、第五十號」ヲ、同「第五十六  
 號」ノ下ニ、「第五十八號、第六十號、第六十四號、第六十六  
 號、第六十八號」ヲ、同「第一百十二號」ノ下ニ、「第一百十八號、

第一百二十四號」ヲ、同「第三百三十四號」ノ下ニ、「第三百三十八號」  
 ヲ加フ  
 輸送艦、第一號型ノ項中「第十號」ノ下ニ、「第十二號、第十  
 二號」ヲ加フ  
 (内令提要卷三、三三頁参照)

内令第九九三號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

内令提  
要登載

第六條表中

三池	船舶警戒部三池支部
----	-----------

ヲ

三池	船舶警戒部三池支部
鹿兒島	船舶警戒部鹿兒島支部

ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第九九四號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定

ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和十九年八月二十五日

内令提  
要登載

秘海軍公報 第四七八二號 昭和十九年八月二十七日

一一五七

<p>第百三海軍軍需部ダバオ支部ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1045 481 1109 672">第百三海軍軍需部 セブ 支 部</td> <td data-bbox="1045 672 1109 1108">セブ 所在地方面各部ニ要スル軍 需品(航空兵器ヲ除ク)ノ 保管及供給ニ關スル事項</td> </tr> </table> <p>(内令提要卷一、三八ノ五四ノ一頁参照)</p>	第百三海軍軍需部 セブ 支 部	セブ 所在地方面各部ニ要スル軍 需品(航空兵器ヲ除ク)ノ 保管及供給ニ關スル事項	<p>官房軍第一〇三三號</p> <p>海軍水雷學校所屬</p> <p>第六號 雷艇</p> <p>第十四號 雷艇</p> <p>第十五號 雷艇</p> <p>第十六號 雷艇</p> <p>第十七號 雷艇</p> <p>海軍工機學校所屬</p> <p>第三十二號 雷艇</p> <p>第三十三號 雷艇</p> <p>第三十五號 雷艇</p> <p>右雜役船籍ヨリ除ク</p> <p>昭和十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>官房人機密第一六六〇號</p> <p>横須賀鎮守府司令長官ハ左ノ各號ニ依リ通信科豫備補習生ヲ採</p>
第百三海軍軍需部 セブ 支 部	セブ 所在地方面各部ニ要スル軍 需品(航空兵器ヲ除ク)ノ 保管及供給ニ關スル事項			
<p>用スベシ</p> <p>昭和十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>一 採用範圍</p> <p>現ニ無線電信講習所第一部特科生徒ニシテ練習課程ニ在ルモ ノ竝ニ同上課程卒業者</p>	<p>二 出願期日</p> <p>昭和十九年九月二十日</p> <p>三 身體檢査及口頭試問ノ期日竝ニ場所</p> <p>(イ) 期日</p> <p>昭和十九年十月上旬</p> <p>(ロ) 場所</p> <p>横須賀鎮守府司令長官ノ定ムル所ニ依ル</p> <p>四 採用期日及採用員數</p> <p>(イ) 期日</p> <p>昭和十九年十月上旬</p> <p>(ロ) 員數</p> <p>約一五〇名</p>	<p>官房需第二一二號</p> <p>大東亞戰爭中小笠原諸島、伊豆諸島及沖繩諸島ニ在ル航空隊ニ 勤務スル者ニハ昭和十八年官房需第二〇九號別表第一備考第七 號ノ規定ニ拘ラズ同表ニ依ル熱帯地及戰時増加食ヲ給與スルコ</p>		

トヲ得

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

(参照) 海軍會計法規類集二卷三三〇ノ二ノ二頁

官房需第二一三號

當分ノ間海軍港務部勤務ノ軍人軍屬ニハ左ノ各號ニ依リ糧食ヲ給與ス

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

一 海軍給與令第七十九條ノ二第四號ノ規定ニ該當スル下士官及兵ニハ特ニ必要アル場合ヲ除ク外同令第八十一條第一項第一號ノ規定ヲ適用ス

二 前號以外ノ者ニシテ糧食ノ給與ヲ必要トスルトキハ海軍給與令第八十八條ノ規定ニ依ル

三 第一號ノ規定ヲ適用スル下士官及兵ニハ昭和十九年官房需第五號ノ規定ヲ準用ス

(参照) 昭和十九年官房需第五號(昭和一九、一、一五 海軍公報(部内限))

○通牒

軍務一機密第八〇〇號ノ章

昭和十九年八月二十五日

海軍公報 第四七八二號

昭和十九年八月二十七日

海軍省軍務局長  
海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長  
各警備隊參謀長  
各艦隊參謀長  
海軍總務部參謀長  
海軍上衛衛參謀長

醫科高原海軍保健場施設其ノ他ノ件申進

首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然取計相成度

一 要旨

概ネ既設海軍保健場ニ準ズルノ外入場者ノ體力鍊成ヲ兼ネシム

二 施設要領

(イ) 長野縣諏訪郡北山村蓼科高原ニ設置シ兼當リ同地所在高原「ホテル」、山紫閣及親湯ノ三旅館ヲ借用整備ノ上使用ス

(ハ)(ロ) 本保健場ハ野比海軍病院ノ管理トス  
一部ヲ野比海軍病院分室トシテ使用ス但シ結核性疾患ハ收容セズ

三 使用要領

(イ) 使用資格者及使用期間標準

(一) 戰地勤務連續六ヶ月以上ニ及ベル者内地歸還後成ルベク速ナル時機一ヶ月以内  
戰地勤務六ヶ月以内ノ者ト雖モ疲勞特ニ甚シキ者右ニ準

- (一) 練習航空隊所屬航空機搭乗員ハ練習聯合航空總隊司令官所定ニ依リ三週間以内
  - (二) 各海兵團補充分隊及保健班在籍中ノ航空機搭乗員及潜水艦乘員、野比海軍病院長所定ノ期間
  - (三) 前諸項ノ外航空機搭乗員及潜水艦乘員ニシテ所轄長必  
要ト認ムル者、野比海軍病院長所定ノ期間
  - (四) 右ノ外特ニ海軍大臣ノ認許スル者、野比海軍病院長所定ノ期間
  - (五) 本保健場ヲ使用セントスル場合所轄長ハ別紙要領ニ依リ概ネ一週間前迄ニ野比海軍病院長ニ協議スルモノトス
  - (六) 野比海軍病院長ハ毎月月初前月ノ本保健場利用狀況ヲ所管領守府司令長官ニ報告スルモノトス
- 四、保健實施要領
- (イ) 入場者ノ保健ニ關シテハ野比海軍病院長之ヲ管理ス
  - (ロ) 入場者ニ對シテハ單ナル休養氣分ニ陥ルヲ戒メ本保健場ノ要旨ヲ徹底セシメ規律正シキ攝生アル團體生活ヲ營マシム
  - (ハ) 入場者ニ對シ積極的鍊成ヲ施シ効果的高原氣候ト相俟ツテ速ニ氣力體力ノ恢復竝ニ維持増強ヲ計ル
  - (ニ) 管理者ハ入場者ノ心身ノ推移變調ヲ注視シツツ適切ナル體育ヲ施スト共ニ精神の清新法(氣分轉換)ニ重點ヲ置ク
  - (ホ) 日課中ニ園藝、牧畜、養鶏、魚釣、水泳、滑空、スキー、スケート、演藝、講話及修養等ヲ適宜織込ム

(ハ) 野比海軍病院長ハ入場者ノ健康管理竝ニ鍊成指導ニ關シ横須賀航空衛生調査委員會、海軍潜水艦衛生調査研究委員會、海軍省醫務局及其ノ他關係各部ト密接ニ連絡シ效果發揚ニ努ム

五 其ノ他  
既設保健場施設使用ニ關スル諸規定ヲ準用ス

別紙  
年 月 日 所 轄 長 團  
野比海軍病院長殿  
醫科保健場使用ノ件協議  
首題ノ件左ノ通使用致度候

數	員			期
	佐官以上	尉官、特務士官、候補生、準士官	下士官兵	
計				自 至 月 月 日 日 食 食
名	名	名	名	名

別紙人名表略  
艦本機密第一一號ノ一四五一九  
昭和十九年八月二十六日

海軍艦政本部長

昭和十三年四月二日艦本第五一六三號艦政本部文書調査整理内規ハ之ヲ廢ス

水機密第二二九號ノ一

昭和十九年八月十四日

水路部長

關係各廳長殿

氣象通報ニ關スル諸規程ノ取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ中央氣象臺長ヨリ別紙ノ通牒牒有之候條子知相成度

(別紙)

氣報秘發第二一六號

昭和十九年七月二十七日

中央氣象臺長

水路部長殿

氣象通報ニ關スル諸規程ノ取扱ニ關スル件

今般運輸通信省達第五二二號(省外極秘昭一九七五)ヲ以テ氣象通報ニ關スル規程類ハ軍用資源秘密トシテ指定セラレタルニ付左記中欄ノ通り處理ノ上下欄ノ通り取扱相成度追テ貴管下關係ノ向ヘモ右ノ旨御傳達相成度

記

秘海軍公報 第四七八二號

昭和十九年八月二十七日

名稱	處理	取 扱
一 氣象管制要領	共 儘	從來通り(氣象機密取扱規則)中ノ第一種機密書類トシテ取扱フ)
二 氣象電報式並放送式	同 右	同 右
三 氣象電報取扱規程	「軍資秘」ノ標記ヲナス	今後第一種機密書類トシテ取扱フ
四 氣象電報作成心得	同 右	同 右
五 中央氣象臺氣象無線通報甲類取扱規程	共 儘	從來通り(第一種機密書類トシテ取扱フ)
六 中央氣象臺氣象無線通報乙類取扱規程	同 右	從來通り(第一種機密書類トシテ取扱フ)
七 札幌、大阪、福岡管區氣象臺氣象無線通報乙類取扱規程	同 右	同 右
八 船舶氣象電報取扱規程	同 右	同 右
九 中央氣象臺、神戸海軍氣象臺、沖繩地方氣象臺、樺太地方氣象臺、無線通報丙類取扱規程	同 右	同 右
一〇 南西諸島氣象官署氣象無線通信要領	同 右	同 右
一一 海上氣象特報海上暴風警報電報式	「軍資秘」ノ標記ヲナス	一般ノ「軍資秘」圖書ト同様ニ取扱フ(毎月保管報告不要)
一二 氣象照會電報規程	同 右	同 右

一三 区内氣象照會電報 規程 「軍資秘」ノ標記ヲナス  
 一四 電力氣象通報要領 同 右 同 右  
 一五 臨時漁業氣象通報 規程 同 右 今後第一種機密書類トシテ取扱フ  
 一六 戰時氣象通報規程 規程 同 右 從來通り(第一種機密書類トシテ取扱フ)

○雜 款

○事務再開  
 第一聯合通信隊司令部ハ八月二十一日ヨリ東京海軍通信隊ニ於テ事務ヲ再開セリ

(電話 海軍省交換 二四六九 幕僚室)  
 (第一聯合通信隊司令部)

○事務開始  
 葛城機裝員事務所ヲ八月十七日吳海軍工廠内第一浮棧橋(電話 三八七二)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理  
 人吉海軍航空隊出水分遣隊殘務整理ハ第二出水海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ  
 横領松島航空基地殘務整理ハ千葉縣長生郡茂原町茂原航空基地氣付ウ四五〇ニ於テ之ヲ行フ

合同海軍葬儀執行			
期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所
九月六日 〇九〇〇	故海軍中將秋山門造外諸勇士	吳海軍人事部長	吳軍港第一練兵場 佛式
同 一〇〇〇	故海軍大佐萩尾 力外諸勇士	福岡地方海軍人事部長	福岡市本願寺 同
九月九日 一〇三〇	故海軍中將伊集院松治外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀海兵團 同
九月十二日 一〇〇〇	故海軍中尉大石秀二外諸勇士	神戸地方海軍人事部長	神戸港軍隊 同
九月十九日 同	故海軍少佐宮島重幸外諸勇士	名古屋地方海軍人事部長	名古屋市 東本願寺別院 同

秘

1910

海軍公報 第四七八三號

昭和十九年八月二十八日(月)  
海軍大臣官房

○令 達

官房人機密第一六一七號

本年八月十五日現在第三海軍技手養成所兼務職員タル者ハ別ニ  
辭令ヲ用ヒズシテ同職員ヲ免ゼラレタルモノトス

昭和十九年八月十五日

海軍大臣

官房經機密第一五二一號

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

各鎮守府司令長官  
各警備府司令長官 殿

市町村助成金交付額ノ件通達

昭和十九年度市町村助成金交付額左記ノ通定ム

記

神奈川縣橫須賀市	二七〇、〇〇〇圓
宮城縣宮城郡多賀城村	五、〇〇〇圓
茨城縣土浦市	一三、五〇〇圓
茨城縣稻敷郡阿見村	六、五〇〇圓
茨城縣稻敷郡朝日村	二、〇〇〇圓
千葉縣木更津市	二〇、〇〇〇圓

千葉縣君津郡君津町	三、〇〇〇圓
千葉縣安房郡神戶村	六〇〇圓
千葉縣館山市	一、〇〇〇圓
神奈川縣高座郡寒川町	九、〇〇〇圓
神奈川縣高座郡大和町	二、五〇〇圓
靜岡縣沼津市	九、〇〇〇圓
愛知縣豊川市	一〇〇、〇〇〇圓
三重縣鈴鹿市	一一、〇〇〇圓
三重縣津市	五、〇〇〇圓
廣島縣吳市	三二〇、〇〇〇圓
廣島縣安藝郡江田島村	一五、〇〇〇圓
廣島縣安藝郡昭和村	一、五〇〇圓
廣島縣安藝郡菅戸町	二、〇〇〇圓
廣島縣安藝郡倉橋島村	五〇〇圓
廣島縣安藝郡大屋村	一、五〇〇圓
廣島縣安藝郡坂村	一、五〇〇圓
廣島縣佐伯郡大柿町	一、〇〇〇圓
山口縣光市	四九、〇〇〇圓
山口縣宇部市	一、〇〇〇圓
大分縣佐伯市	三、〇〇〇圓

秘海軍公報 第四七八三號 昭和十九年八月二十八日

一一六三

大分縣大分市	五、〇〇〇回	神奈川縣中野大野町	四、五〇〇回
長崎縣佐世保市	二二〇、〇〇〇回	宮城縣柴田郡船岡町	五、五〇〇回
長崎縣大村市	六四、〇〇〇回	京都府舞鶴市	一〇、〇〇〇回
長崎縣東彼杵郡川棚町	一〇、〇〇〇回	以上火藥廠作業會計	合計 二五、五〇四回
鹿兒島縣鹿屋市	一〇、〇〇〇回	三重縣四日市市	一一、〇〇〇回
京都府舞鶴市	一七五、〇〇〇回	三重縣三重郡楠町	五〇〇回
京都府與謝郡栗田村	二、五〇〇回	山口縣德山市	一五、二〇〇回
德島縣板野郡松茂村	九〇〇回	福岡縣糟屋郡志免町	八、五〇〇回
青森縣下北郡大湊町	一七、〇〇〇回	福岡縣糟屋郡須惠村	一五、〇〇〇回
青森縣下北郡田名部町	三、五〇〇回	朝鮮平壤府	四、五〇〇回
青森縣上北郡三澤村	一、二〇〇回	朝鮮平安南道江東郡晚達	五〇〇回
北海道網走郡美幌町	一、五〇〇回	面勝湖里學校組合	四四八回
北海道千歲郡千歲町	一、五〇〇回	朝鮮平安南道大同郡林原面	四、五〇〇回
朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海邑	七、〇〇〇回	朝鮮平安南道大同郡高坊	三、〇〇〇回
朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海學校組合	七、〇〇〇回	臺灣高雄州高雄市	一、〇〇〇回
關東州旅順市	三、五〇〇回	臺灣新竹州新竹市	六四、一四八回
臺灣澎湖廳馬公街	六、五〇〇回	以上燃料廠作業會計	合計 六四、一四八回
臺灣高雄州高雄市	一四、〇〇〇回		
臺灣高雄州岡山街	七、〇〇〇回		
臺灣高雄州東港街	一、〇〇〇回		
以上一般會計	合計 一、四二二、二〇〇回		
神奈川縣平塚市	五、五〇四回		

一一六四

官房需第二一六號  
 昭和十八年官房需第二〇九號中左ノ通改正ス  
 昭和十九年八月二十六日  
 海軍大臣  
 別表第一中保健食品ノ部 鶏卵ノ項記事ノ欄及別表第二中基



本食保健食品ノ部 鶏卵ノ項記事ノ欄中「電信員及暗號員」ヲ「電信員、暗號員、水測員及電測員」ニ改ム  
別表第一中主食品ノ項記事ノ欄(2)中「九」ヲ「八」ニ改ム

(參照) 海軍會計法規類集三卷三三〇ノ一ノ二頁

官房艦第三五九號

戰時海軍工作廳工事費規則特例左ノ通定ム

昭和十九年八月二十七日

海 軍 大 臣

戰時工作廳工事費規則特例

一 受託造修工事、有償官給工事及工場用設備機械工事ハ工事番號別整理トシ有線通信施設工事、各部局受託工事及第四號ノ規定ニ依ル工事ハ部局別整理トシ其ノ他ハ之ヲ豫算科目(節別主掌別以下同ジ)整理トス

二 前號ノ整理ハ廳長必要ト認ムルトキハ見積額ニ依ルコトヲ得此ノ場合工事番號別又ハ部局整理ヲ爲スベキ工事ト雖モ工事費使用額ハ之ヲ豫算科目別整理トスルコトヲ得

三 工作廳間ニ於ケル受委託工事ニ要スル豫算ハ受託工作廳ノ豫算ヲ以テ之ヲ支弁スベシ但シ海軍艦政本部關係、海軍航空本部關係及海軍電波本部關係工作廳間ノ受委託工事ニ在リテハ第四號ノ規定ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

四 工作廳以外ノ部内他廳ヨリノ受託工事ニ在リテハ受託廳ノ豫算ヲ以テ立替支弁シ毎年度末第一號書式ノ受託工事調書ヲ

調製シ海軍艦政本部長、海軍航空本部長又ハ海軍電波本部長ニ送付スベシ

五 海軍艦政本部、海軍航空本部又ハ海軍電波本部ハ前號ノ調書ニ依リ委託元部局ヨリ豫算ノ移用ヲ受クルモノトス

六 附屬費事項ニ屬スル諸費ノ支弁標準ハ別表ニ依ル

七 工事費計算書、同明細書、組合工數日報及勤務簿ハ廳長必要ト認ムル場合ハ適宜ノ様式ニ依ルコトヲ得

八 廳長ハ毎月第二號書式ノ工事費月報ヲ、毎年九月、十二月及三月第三號書式ノ豫算現況調書ヲ作製シ海軍艦政本部長、海軍航空本部長又ハ海軍電波本部長ニ送付スベシ

九 廳長ハ翌年度四月三十日迄ニ第四號書式ノ經費支出年報ヲ作製シ海軍艦政本部長、海軍航空本部長又ハ海軍電波本部長ニ送付スベシ

十 戰時海軍工作廳工事費規則第十九條第一號、同第二號、第二十二條第四項、第二十四條、第二十六條、第三十條、第三十一條、第三十四條第二項、第三十七條、第三十九條、第四十條但書、第四十四條、第四十五條及第四十七條ノ規定ハ之ガ適用ヲ停止ス

附 則

本令ハ昭和十九年八月二十一日ヨリ之ヲ適用ス

(別表及書式添)

○ 通 牒

官房艦第三六〇號

昭和十九年八月二十七日

海軍次官

各工作廳長殿

海軍工作廳ニ於ケル豫算及工事費整理簡單化ニ關スル件申進

今般官房艦第三五九號ニ依リ戰時海軍工作廳工事費規則ノ適用ニ對シ豫算及工事費整理ノ特例ヲ設ケ本月二十一日ヨリ實施ノコトト相成候處右措置ハ此等事務處理ヲ著シク簡單化シ工作廳内事務部及事業部ニ於ケル事務要員ヲ極力減少シ右捻出人員ヲ事業現場、資材ノ調達及管理方面ニ振向ケ以テ戰備作業ノ急速機敏ナル實施ヲ圖ラントスル趣旨ニ有之候條各工作廳ニ於テハ速ニ要員ノ配置轉換ヲ實施シ當面ノ事態ニ對處スルニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

○雜款

○事務開始

第三百三十八號特設輸送艦艇裝員事務所ヲ八月十日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第三百八設營隊ハ八月十五日横須賀海軍施設部ニ於テ事務ヲ開始セリ

酒匂艦裝員事務所ヲ八月二十一日佐世保海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(電話 佐世保工廠一三五六番)

第六十一號海防艦艇裝員事務所ヲ八月二十一日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第三十九號海防艦艇裝員事務所ヲ八月二十一日横濱市舞見區末廣町日本鋼管株式會社舞見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

伊號第三百六十五潛水艦艇裝員事務所ハ八月一日之ヲ撤去セリ

海軍中尉伊東信郎八月十五日飛行訓練中遭難殉職八月二十日松山航空基地ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

海軍大尉大山三郎八月十六日飛行訓練中遭難殉職八月二十日第七五三海軍航空隊香取派遣隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

海軍少佐福山久光海軍中尉飯塚高志八月十六日飛行訓練中遭難殉職八月二十一日百里原海軍航空隊ニ於テ佛式ニ依リ海軍葬儀執行セリ

大東亞戰爭戰歿者故海軍軍屬林鐘完外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來九月二十七日午前十時鎮海海仁會集會所ニ於テ神式ニ依リ執行

事項	細目
一 器具新調	左ノ器具ノ購買、製造、敷設、取付等ニ要スル諸費但シ機械又ハ營造物ニ屬スルモノヲ除ク (イ) 現場器具 加工器具、「ジグ」、狭範ノ類及各種木型、金型、「インゴットケース」ノ類 (ロ) 諸計器 「各種度量衡器」「ゲージ」類、壓力計、高濕計、溫度計、氣象計、時計、「タイムレコーダ」ノ類 (ハ) 電氣器具 電燈、電話、電鐘、送風器、電氣暖房器、電氣閉閉器、配電盤、電氣計器、豫應器、小型電動機、電池、電柱、電燈線、動力線、通信線ノ類 (ニ) 施設器具 (給水装置、暖房装置、通風管装置、瓦斯管装置、空氣管装置ノ類、屋内外軌道道板、棧橋、煉瓦床、木煉瓦床、敷一タイル、「コンクリート」床、暗渠水溜ノ類) (ホ) 車輛類 小型車輛、「トロ」、自動車ノ類
二 器具修理	(イ) 器具修理 前項器具一切ノ保存、手入れ、修補、洗濯等ニ要スル諸費 (イ) 機械改造修理 機械ノ改造、修理、検査、保存、手入れニ要スル諸費但シ新調程度ノ改造組替又ハ保管轉換ニ依リ新ニ機械ト爲リタル場合ヲ除ク (ロ) 機械及器具 諸機械及重要器具ノ工場内外ノ移轉又ハ据附換ニ要スル諸費又ハ保管轉換ニ要スル諸費但シ組替又ハ保管轉換ニ依リ新ニ機械ト爲リタル場合ヲ除ク (イ) 機械器具運轉 諸機械及動力器具ノ運轉ニ要スル諸費(蒸氣、電力、ガス、壓縮空氣ノ發生ニ要スル諸費共) (ロ) 船車運轉 (小蒸氣船、機關車、起重機、運行起重機、曳船、通船、自動車等ノ使用ニ要スル諸費)
三 機械改造修理及機械器具移轉	(イ) 檢査 購置物品(工廠資金購買ノ分ヲ含ム)檢定品其他諸材料(半作品ヲ含ム)ノ試験檢査ニ要スル諸費及檢査又ハ監督補助等ノ爲各地派遣工員ノ工費及旅費 (ロ) 保管運搬 材料物品ノ保管、手入、荷造及運搬、殘屑類ノ拾集、手入並ニ倉庫番、道具番指導監督 工事ノ直接指導監督ニ要スル諸費 (イ) 企劃整理 作業ノ企劃及整理(方案材料、豫定、進行、重量、製品等ノ各係ニ要スル諸費) (ロ) 工務用作業 工務用ノ製圖、印刷、製本、寫眞、青寫眞等ニ要スル諸費 (ハ) 事務 (庶務、計算其他前各號以外ノ事務ニ要スル各掛ノ諸費(工員募集ニ要スル諸費共)及調査、事務打合等ノ爲出張スル工員ノ工費及旅費) (ホ) 雜費 損害補償慰籍内規ニ依リ諸費、工員用住宅及工員寄宿舍家賃借用料並ニ昭和十七年官房第七七八八號ニ依リ工員輸送ニ要スル諸費 (イ) 保安取締 消防、警火、警戒當直等災害防止ニ要スル諸費 (ロ) 衛生掃除 喫煙掃除、構内掃除、便所掃除、年末掃除、塵芥掃除等工場整頓ニ要スル諸費 (ハ) 雜務 湯沸、冷却水、小使、給仕、電話交換等ニ要スル諸費 (ニ) 暖冷房 暖冷房ニ要スル諸費
四 檢査及保管運搬	(イ) 檢査 購置物品(工廠資金購買ノ分ヲ含ム)檢定品其他諸材料(半作品ヲ含ム)ノ試験檢査ニ要スル諸費及檢査又ハ監督補助等ノ爲各地派遣工員ノ工費及旅費 (ロ) 保管運搬 材料物品ノ保管、手入、荷造及運搬、殘屑類ノ拾集、手入並ニ倉庫番、道具番指導監督 工事ノ直接指導監督ニ要スル諸費 (イ) 企劃整理 作業ノ企劃及整理(方案材料、豫定、進行、重量、製品等ノ各係ニ要スル諸費) (ロ) 工務用作業 工務用ノ製圖、印刷、製本、寫眞、青寫眞等ニ要スル諸費 (ハ) 事務 (庶務、計算其他前各號以外ノ事務ニ要スル各掛ノ諸費(工員募集ニ要スル諸費共)及調査、事務打合等ノ爲出張スル工員ノ工費及旅費) (ホ) 雜費 損害補償慰籍内規ニ依リ諸費、工員用住宅及工員寄宿舍家賃借用料並ニ昭和十七年官房第七七八八號ニ依リ工員輸送ニ要スル諸費 (イ) 保安取締 消防、警火、警戒當直等災害防止ニ要スル諸費 (ロ) 衛生掃除 喫煙掃除、構内掃除、便所掃除、年末掃除、塵芥掃除等工場整頓ニ要スル諸費 (ハ) 雜務 湯沸、冷却水、小使、給仕、電話交換等ニ要スル諸費 (ニ) 暖冷房 暖冷房ニ要スル諸費
五 工務	(イ) 作業休止工 協議會、健康診断、國民體力檢査、昇給、試験、技師檢定等ニ出席ノ爲作業休止時間ニ對スル工費及作業其他ノ都合ニ依リ配置ヲ離シタル工員ノ工費 (ロ) 轉勤召喚諸費 轉勤、召喚、歸郷等工員ノ工費、旅費(手當及移轉料共)及昭和十七年官房第五三三九號ニ依リ支給スル工員及家族ノ旅費 (ハ) 不就業工員 昭和十八年官房第三七號ノ規定ニ依リ支給スル工員ノ補給給料 (イ) 賞與 海軍工員規則第九十八條乃至第一百條ニ依リ賞與及昭和十七年官房第五二六號ノ特別給與 海軍工員規則第三十三條ニ依リ豫告手當及第七十五條ニ依リ退職手當 (ロ) 退職手當 海軍工員規則第三十三條ニ依リ豫告手當及第七十五條ニ依リ退職手當 (ハ) 特別給與 増加徴用工員特別給與
六 休業工員	(イ) 養成工員 見習工員、補修工員及選科工員ノ教育ニ要スル諸費(見習工員、補修工員ノ規則第十四條ノ規定ニ依リ支給スル諸費、小使、講義者等ニ對スル諸費共)海軍工員規則第十四條ノ規定ニ依リ支給スル諸費、貸與被服物品費、海軍徴用工員ノ教育ニ要スル諸費(青年科工員ノ教育ニ要スル諸費) (ロ) 青年科工員 海軍徴用工員規則第十四條ノ規定ニ依リ支給スル諸費、指導員諸給與、消耗材料、報國團補助 海軍報國團ニ要スル補助金 (ハ) 體育 體育ニ要スル諸費(運動用具、運動賞品等) (イ) 定備材料 定備材料ノ初度調辦費
七 雜役	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
八 賞與及退職手當	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
九 教育	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
十 定備材料及工務用些末材料	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
十一 假設物	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
十二 被服及糧食	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額
十三 資金材料損減歩合及決算差額	(イ) 假設物 假設物ニ要スル諸費 (ロ) 被服 明治二十九年達第九十號ニ依リ工員用被服物品、昭和十七年官房第四九三五號ニ依リ貸與被服物品及海軍徴用工員規則第十條ノ規定ニ依リ作業服ニ要スル諸費 (イ) 食糧 海軍徴用工員規則第十一條ノ規定ニ依リ非常食支給ニ要スル諸費及保健ニ要スル諸費 (ロ) 損減歩合 資金材料ニ對スル損減歩合賦課額負擔 (ハ) 決算差額 第四十二條ニ依リ決算差額

1915

(官房艦第三五九號)

(昭和十九年八月二十八日秘海軍公報)

第一號書式

昭和 年度 受託工事調書

受託 廳 名

委託元部局名					
委託元名	受託年月日	書類番號	工事名	金額	記事
	計				

135. 182 X 287

- 備考
1. 本調書ハ海軍工作廳以外ノ部内他廳受託工事(海軍艦政本部系、海軍航空本部系、海軍電波本部系工作廳間ノ受託工事ヲ含ム)ヲ計上スルモノトス
  2. 本調書ハ委託元廳ノ屬スル各部局名録ニ別紙ニ調製スルモノトス
  3. 金額ハ合計ノミニ付計上スルモノトス

1916

(官房艦第三五九號)

(昭和十九年八月二十八日海軍公報)

第二號書式

工 事 費 月 報 (昭和 年 月分)

工 作 廳 名

區 分		造 兵 部			造 船 部			造 機 部			總 務 部			合 計		
工 費	本	工 數			工 數			工 數			工 數			工 數		
	工 費															
	材 料 費															
	外 費															
	計															100
事 費	附	工 數														
	工 費															
	材 料 費															
	外 費															
	計															100
額	合	工 數														
	工 費															
	材 料 費															
	外 費															
	計															100
工 員 數 及 平 均 給 料	區 分	員 數	延 給 料	平 均	員 數	延 給 料	平 均	員 數	延 給 料	平 均	員 數	延 給 料	平 均	員 數	延 給 料	平 均
	普 通 工 員	男 工 員														
	女 工 員															
	計															
	見 習 工 員															
合 計																
有 効 工 員																

備考 裏面ノ通

B3, 364×515

## 第二號書式 備考

- 一 本月報ハ事業梗概、訓令通牒、認許等ニ依ル工事費、他願受託工事費、受託造修費、應内他部受託工事費、資金加工工事費等總テ作業ニ關スル工事費ヲ計上スルモノトス
- 二 部別ハ工廠以外ノ各廳ニ在リテハ夫々工廠ニ準ジ區分スルモノトス
- 三 工事費額ノ欄ハ當該年度毎月二十日迄ノ累計額ヲ計上スルモノトス
- 四 本費欄ニハ其ノ部主務木費工事、部内他願ヨリノ受託工事、廠内他部ヨリノ受託木費工事及資金加工工事ニ屬スル工數金額ヲ計上スルモノトス
- 五 附屬費欄ニハ其ノ部主務附屬費工事、廠内他部ヨリノ受託附屬費工事ニ屬スル工數金額ヲ計上スルモノトス
- 六 賞與及退職手當ハ附屬費工費ニ合算シ其ノ金額ヲ朱書併記スルモノトス
- 七 資金附屬諸費支弁工員ノ工數、工費及人員ハ會計部及合計當該欄ニ別ニ計上スルモノトス
- 八 資金外材料（配給材料共）使用高ヲ含マシムルモノトス
- 九 外費ハ豫算分割ニ依リ整理シ得サル部内他廳委託工事費、部外請負工事費、運賃、人夫賃、工員旅費、其ノ他工費及材料費ニ屬セザル諸費ナリ
- 十 工員數ハ毎月二十日現在ニ於ケル在籍員數及有効工員數ヲ計上スルモノトス  
有効工員トハ在籍工員數ヨリ應徵應召工員、工作科豫備補習生、他廳派遣（戦地ヲ含ム）工員、高工選科生徒及商船學校實習生等ヲ除キタルモノトス
- 十一 平均給料額欄ハ毎月二十日現在ニ於ケル平均額ヲ延給料ハ同日ニ於ケル日給ノ合計額ヲ、合計欄ハ總平均額ヲ計上スルモノトス
- 十二 本月報ハ翌月五日迄ニ海軍艦政本部長、海軍航空本部長又ハ海軍電波本部長ニ送付スベシ

1918

(官房艦第三五九號)  
第三號書式

(昭和十九年八月二十八日秘海軍公報)

年度 月分 船體 (甲鐵)(機關)(砲類)(水雷)(電氣)(無線)(有線)(機雷)(音響)(航海) 豫算現況調査  
(光學)(航空)(空砲)(空水)(空航)(空光)(電波)(俸給及監督諸費)(機械)

年 月 二十日 調 工廠 (工作部) 部 (課)

科 目 (節)	一般又ハ 別 途	豫 算 額 A	本月迄支出済額 B	翌月以降年度内 支出見込額 C	豫算過不足額 A-(B+C)	次 年 度 以 降 所 要 額	記 事
合 計							

B4. 257 X 364

備考 裏面ノ通

第三號書式 備 考

- 一 本表ハ工作廳ニ於ケル所要豫算ニ付當該年度ノ狀況ヲ迅速ニ知ルニ在リ
- 二 本表ハ左ノ通區分調製スルモノトス
  - (イ) 事業部(實驗部ハ事業部ニ準ズ以下同ジ) 別トシ更ニ左ノ豫算別ニ別紙ニ調製スルモノトス但シ他廳受託工事、廳内他部受託工事ニ付テハ當該事業部主務工事ニ適宜合算スルモノトス  
 船體、甲鐵、機關、砲類、水雷、電氣、無線、工作物タル有線通信(以下有線ト略稱ス) 機雷、音響、航海及光學(以上艦政本部主務) 航空(航空本部主務) 電波(電波本部主務) 竝ニ航空本部豫算主務ニシテ艦政本部造修主務タル空砲、空水、空航、空光
  - (ロ) 俸給及監督諸費、及機械(有線ヲ除ク)(以上艦政本部主務ノモノ、航空本部主務ノモノ及電波本部主務ノモノニ區分調製ノコト)ハ前各號ニ準ジ各別ニ會計部ニ於テ取纏メ調製スルモノトス
- 三 一般又ハ別途欄ニハ豫算配付ノ區分ヲ記註スルモノトス
- 四 豫算額ハ事業梗概ニ記載シアルモノハ其ノ額(但シ配付制限額アルモノハ其ノ額ニ依ル)記載シアラザルモノハ訓令通牒、認許等ノ當該年度額(前年度ヨリ繰越額共)ヲ計上スルモノトス
- 五 訓令通牒工事額ヲ事業梗概額ニ充タザル場合ニ於テハ實際不用額ヲ記事欄ニ記載スルモノトス
- 六 次年度以降所要額欄ニハ調製期迄ニ訓令又ハ通牒工事ニ對スル翌年度以降使用見込額ヲ計上スルモノトス
- 七 豫算過不足額ニ對シテハ其ノ處分方法ヲ記事欄ニ記載スルモノトス
- 八 本表ハ九月十二月及三月分ヲ毎月二十日及三月ハ末日現在ニテ調製シ翌月五日(三月末分ハ四月二十日)迄ニ左ノ通送付スルモノトス
 

艦政本部主務ノモノ	艦政本部ニ	二通
艦政本部造修主務ノモノ	艦政本部及航空本部ニ	二通宛
航空本部主務ノモノ	航空本部ニ	二通
電波本部主務ノモノ	電波本部ニ	二通
- 九 本表ハ敏速ニ承知スル要アルヲ以テ全部ノ取纏メヲ待タズ調製済ノ分ヨリ提出スルモノトス



1920

(官房艦第三五九號)

(昭和十九年八月二十八日秘海軍公報)

年度經費支出年報

第四號書式

款 項

工 作 廳 名

目	節	支 出 額					合 計
		工 數	工 費	材 料 費	外 費		
合	計						

- 備考
1. 本年報ハ當該年度ニ屬スル豫算ノ支出額ヲ計上スルモノトス
  2. 艦政本部主務豫算ニ屬スルモノノ航空本部主務豫算ニ屬スルモノノ電波本部主務豫算ニ屬スルモノトヲ各別紙ニ調製スルモノトス
  3. 各工作廳委受託工事費ハ受託廳ニ於テ計上スルモノトス
  4. 本年報ノ支出合計額ハ科目毎ニ經費支出簿ノ支出額ト合致スルモノトス

B5. 182x257

秘

1921

海軍公報 號外

昭和十九年八月二十八日(月)  
海軍大臣官房

○ 叙 勳

○ 昭和十九年八月十五日發令

假部三三〇 海軍大將 澤木 頼雄

授旭日大綬章

○ 昭和十九年八月十五日發令

假部三三七 海軍少將 黒瀬 浩

假部三三六 海軍軍醫少將 高橋 豊

假部三三九 海軍大佐 鮫島 素直

假部三四〇 海軍大佐 中川 武男

假部三四一 海軍藥劑大佐 森 林二

假部三四二 海軍法務大佐 仁禮 愛之

假部三四三 海軍中佐 入江 籌直

假部三四四 海軍中佐 天野 五一

假部三四五 海軍中佐 宮崎 勲

假部三四六 海軍中佐 荒井 靖夫

假部三四七 海軍中佐 山内 春雄

假部三四八 海軍中佐 山崎 慎二

假部三四九 海軍中佐 赤尾 俊二

假部三五〇 海軍軍醫中佐 田中 強

假部三五〇 海軍技術中佐 古川 哲一

假部三五六 海軍中佐 赤堀 次郎

假部三五七 海軍少佐 山口 正之

假部三五八 海軍少佐 中尾 忠雄

假部三五九 海軍少佐 菅井 敏夫

假部三五〇 海軍少佐 榎本 誠之

假部三五〇 海軍少佐 關口 鐵造

假部三五〇 海軍少佐 木川 幸人

假部三五〇 海軍少佐 堀江 文彦

假部三五〇 海軍少佐 新川 治夫

假部三五〇 海軍少佐 宮田 末八郎

假部三五〇 海軍少佐 谷 末八郎

假部三五〇 海軍少佐 西尾 武夫

假部三五〇 海軍大尉 工藤 司郎

假部三五〇 海軍大尉 伊藤 庸雄

假部三五〇 海軍教授 河村 敦雄

假部三五〇 海軍教授 中村 嘉米三

假部三五〇 海軍技術大尉 三宅 晃夫

假部三五〇 海軍技術大尉 淺川 博一郎

假部三五〇 海軍技術大尉 竹内 清四郎

假部三五〇 海軍技術大尉 藤井 英雄

假部三五〇 海軍技術大尉 織田 文雄

假部三五〇 海軍技術大尉 篠原 勇

假部三五五 正垣 大二

假部三五五 三浦角五郎

假部三五五 田中 周作

假部三五五 中村 俊郎

假部三五五 海軍理事官 大阿久彦三郎

假部三五五 海軍技術師 前田 靜雄

假部三五五 海軍技術師 竹本 秀茂

假部三五五 海軍技術師 坂下 長親

假部三五五 海軍技術師 森 英夫

假部三五五 海軍技術師 鈴木 武光

假部三五五 海軍技術師 岡原 亮三

假部三五五 海軍書記 諫山 林

假部三五五 海軍書記 田坂 匠

假部三五五 海軍書記 服部 二郎

假部三五五 海軍大尉 松本金十郎

假部三五五 海軍技術師 古川 秀盛

假部三五五 海軍技術師 村島 泰信

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

假部三五五 海軍少佐 拔井 次夫

秘海軍公報 號外

<p>○昭和十九年二月十六日發令 假題三三六六 海軍大尉 伊藤信治郎 敘勳五等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十六年七月八日發令 假題三三六九 海軍豫備大尉 澁谷 政光 敘勳七等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十七年四月八日發令 假題三三五〇 海軍技手 松沼 一雄 敘勳七等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十八年二月九日發令 假題三三五三 海軍技師 市川今朝茂 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十八年七月十四日發令 假題三三五三 海軍技師 高瀬 正 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十八年八月十六日發令 假題三三五二 海軍技術大尉 加藤善之助 同 三三五三 島田 勇 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十八年九月十一日發令 假題三三五九 海軍技師 鈴木 千里 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十九年四月十二日發令 假題三三五九 海軍技師 鈴木 千里 敘勳六等授瑞寶章</p>
<p>假題三三五八 海軍技術大尉 田中 正作 同 三三五八 海軍技師 鶴田 一男 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十九年六月十三日發令 假題三三六〇 海軍技師 中村 勘一 同 三三六一 今井 博夫 敘勳六等授瑞寶章</p>	<p>○昭和十九年三月七日發令 假題三三六一 海軍中佐 遠藤 忍 敘勳三等授瑞寶章</p>					

1923



# 海軍公報 第四七八四號

昭和十九年八月二十九日(火)  
海軍大臣官房

## ○令 達

達第二七九號

昭和十八年度及昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦五隻、  
潜水艦七隻、海防艦二十二隻及輸送艦二隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年八月二十五日

海軍大臣

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 花月 (ハナヅキ)

驅逐艦 椿 (ツバキ)

第六十七號海防艦

株式會社藤永田造船所ニ於テ建造

驅逐艦 楢 (ナラ)

驅逐艦 柳 (ヤナギ)

第四十八號海防艦

第五十八號海防艦

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 櫻 (サクラ)

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

伊號第四百五潜水艦

波號第百三潜水艦

波號第百五潜水艦

第六十號海防艦

第六十八號海防艦

第一百八號海防艦

第二百二十四號海防艦

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二百二潜水艦

伊號第二百三潜水艦

第十一號輸送艦

第十二號輸送艦

三菱重工業株式會社神戸造船所ニ於テ建造

波號第百四潜水艦

波號第百六潜水艦

第六十三號海防艦

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 屋久 (ヤク)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 久米 (クメ)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第四十一號海防艦

秘海軍公報 第四七八四號 昭和十九年八月二十九日

一一六七

<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 昭和三十四號海防艦</p> <p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定メラル</p> <p>内令第九九五號</p> <p>驅逐艦</p> <p>内令發給</p>	<p>第四十七號海防艦</p> <p>第四十九號海防艦</p> <p>日本海船渠株式會社ニ於テ建造</p> <p>第四十五號海防艦</p> <p>協和造船株式會社ニ於テ建造</p> <p>第八十三號海防艦</p> <p>第九十三號海防艦</p> <p>株式會社新潟鐵工所ニ於テ建造</p> <p>第二百五號海防艦</p> <p>浪速船渠株式會社ニ於テ建造</p> <p>第二百七號海防艦</p> <p>株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造</p> <p>第五十號海防艦</p> <p>三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造</p> <p>第六十四號海防艦</p> <p>第六十六號海防艦</p> <p>株式會社播磨造船所ニ於テ建造</p> <p>第三百十八號海防艦</p>
<p>昭和三十九年八月二十五日</p> <p>海軍</p> <p>内令第九九七號</p> <p>昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス</p> <p>内令發給</p>	<p>右警備海防艦ト定メラル</p> <p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和三十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>右警備海防艦ト定メラル</p> <p>佐世保鎮守府在籍</p> <p>第四十二號海防艦</p> <p>第三十四號海防艦</p> <p>橫須賀鎮守府在籍</p> <p>第四十二號海防艦</p> <p>第十一號輸送艦</p> <p>第十二號輸送艦</p> <p>内令第九九六號</p> <p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定メラル</p> <p>昭和十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二百六號驅潛特務艇</p> <p>内令發給</p>

<p>千島方面根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百九十四號(横)」ノ次ニ「第百六號(横)」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)</p> <p>内令第九九八號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p style="text-align: right;"><b>内令</b> <b>登載</b></p>	<p>第二十七魚雷艇隊ノ項中「448」ノ下ニ「493 495 496 497 498」ヲ加フ</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)</p> <p>内令第九九九號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年八月二十五日</p> <p>海軍大臣</p> <p style="text-align: right;"><b>内令</b> <b>登載</b></p>	<p>鎮海防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第一機動艦隊</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>第八百八號(佐) 第八百七十四號(佐) 第八百七十七號(佐) 第八百七十八號(佐)</p> <p>(内令提要卷三、四八ノ二二頁参照)</p> <p>内令第一〇〇〇號</p> <p>驅逐艦 花</p> <p>月</p>	第一機動艦隊													
第一機動艦隊																

  

<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス</p> <p>海防艦 屋久 海防艦 久米 第六十號海防艦</p>	<p>右本籍ヲ橫須賀鎮守府ト假定ス</p> <p>驅逐艦 楢 驅逐艦 柳 驅逐艦 椿 伊號第二百二潛水艦 伊號第二百三潛水艦 伊號第四百五潛水艦 波號第四百三潛水艦 波號第四百四潛水艦 波號第四百五潛水艦 波號第四百六潛水艦 第四十八號海防艦 第五十八號海防艦</p>
--	--

秘海軍公報 第四七八四號 昭和十九年八月二十九日

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス 昭和十九年八月二十五日 海軍大臣	第六十四號海防艦 第六十六號海防艦 第六十八號海防艦 第一百十八號海防艦 第一百二十四號海防艦 第一百三十八號海防艦
右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス 昭和十九年八月二十七日 海軍大臣	第六十三號海防艦 第六十七號海防艦 第八十三號海防艦 第九十三號海防艦 第二百五號海防艦 第二百七號海防艦
官房需機密第三一六號 艦營需品定額表中定數左ノ通改正ス 機關長主管	

艦隊名	部類	品名	區別	
			類別及番號	消耗品
※	艦	糸	三ノ一	消耗品
※	艦	古綿布	三ノ一	消耗品
記				

官房備第七三號ノ九  
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス  
昭和十九年八月二十八日  
海軍大臣

表中第十六海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第三十根據地隊」ヲ「第三十二特別根據地隊」ニ、所管ノ欄「横須賀鎮守府」ヲ「吳鎮守府」ニ、所屬ノ欄「第四艦隊」ヲ「第三南遣艦隊」ニ改メ

(參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(内令提要卷一、六四ノ九頁)

○雜款  
○本日普通公報發行セズ

内令撰  
要登載